

母の愛は 海より深し 山よりも高し



5月の第2日曜日は母の日でした。私(校長)には81歳の母がいます。私が小学校6年の時に父が病死したため、それ以来母は一人で私と妹を懸命に育ててくれました。二人の子育てのために人生の多くを費やしたような母です。私が29歳の時、母はガンになりました。その当時、私は椎葉小学校に勤務していたので、1日に椎葉と宮崎医大を2往復したこともありましたが、長い道のりでしたが、「何とか持ちこたえて欲しい」と祈る気持ちと「元気なうちに親孝行をすればよかった」と悔やむ気持ちが交錯し、その時どう動いたかあまり覚えていません。なんとか、今では普通に生活できるようになり、照れ臭いですが、少しずつ、感謝の気持ちを形にしようと考えています。(遅すぎましたが・・・)

さて、中学生にとっての親孝行はどんなことでしょうか。お手伝いをしたり、親に感謝の言葉を伝えたりするなど形は様々であれ、どれもすばらしいことだと思います。また、子どもが笑顔で話してくれる、目標をもって元気に育っている、好きなことに夢中になっているなど、親にとってはどれもうれしく、それが日々の親孝行なのかもしれません。

以前読んだ本に次のような話があり感動しました。

俺の家は貧乏だった。運動会の日も、授業参観の日さえもオカンは働きに行っていた。そんな俺の15歳の誕生日、オカンがうれしそうに俺にプレゼントを渡してくれた。ミチコロンドンのトレーナーだった。俺はありがとうと言いつつも、恥ずかしくて着られないなと内心思っていた。その夜考えていた。差し歯を入れるお金もないオカン、ぜいたくはせず、手はかさかさで、化粧なんて当然していない。こんなトレーナー買っらいなら他の事に使えよ…。そんな事を考えながら、昔のアルバムを見てみたくなった。若い時のオカンが写っている。えっ！俺は目を疑った。まるで別人だった。きれいに化粧をし、健康的な肌に白い歯をのぞかせながら笑っている美人のオカンがいた。俺は涙が止まらなくなった。俺を育てるために女を捨てたオカン。ミチコロンドンのトレーナーを腕に抱き、その夜は眠った記憶がある。それから少しばかり時は流れ、俺は高校卒業後の進路を考えなければいけない時期になっていた。大学進学はとっくにあきらめていた。学校で三者面談が行われた時、オカンが先生に向かって言った。「大学に行かせるにはいくらお金が掛かるのですか?」。俺は耳を疑った。びっくりしている俺を横目に、オカンは貯金通帳を先生に見せて、「これで行けますか?」と真っ直ぐな眼で先生を見つめた。それから俺は死にものぐるいで勉強し、大学に合格することができた。郷里を離れる際、オカンが俺に真っ赤なマフラーを渡してくれた。学費をかきながらの大学の生活は苦しくもあったが、マフラーを見ると元気が出た。それから時は流れ、会計士になった俺は来年の春結婚する。そして生活を共にする。俺と最愛の妻と最愛の母とで。なんとしても二人を守ってみせる。色あせたトレーナーとほつれたマフラーを目の前にして俺はそう誓った。サンキュー、オカン。



生徒総会・・・とても良かったです

今年度の生徒総会の詳細は表面のとおりですが、一人一人が校則について熱心に話し合う姿が見られました。今回、靴下の色に特化した「校則」について話し合いました。なぜ、靴下の色はこれまで白だったのか、黒ではなぜいけないのか、それぞれのメリットとデメリットは?・・・などパネルディスカッションをもとに全校生徒が個人で、またはグループで話し合う姿は、確かに「他人事」「学校の事」ではなく、「自分事」として考えていました。

校則の必要性やこの校則が変わったらどうなるか、また変えた自分たちが果たすべきこと何なのかなどを真剣に考え、今回の総会は感心することが多かったです。これも、生徒会役員をはじめ、学級討議など、陰で育った生徒達の努力が実った結果でしょう。校則について生徒と教師が真剣に考えた生徒総会でした。

本校の先生の紹介をします パート1

1年の学年主任兼学級担任です。主任としての的確に学年をリードすることはもちろん、女子ソフトテニス部顧問、親和会長も務める頼れる先生です。

1年担任 宮川先生

剣道部顧問として、日々体育館で厳しくかつ優しく生徒達を見守っています。学校の部活動に関することを一手に引き受けるとともに県中体連の役員でも頑張っています。

1年担任 榎本先生

学校中に造花を置いていただいています。また顧問であるバスケット、キャンプ、シーカヤック、動画編集と特技も趣味も多彩で何でもできる先生です

1年副担 金丸先生